

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-85468

(43)公開日 平成5年(1993)4月6日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 3 B 35/70		9035-3D		
11/00	A	7312-3D		
21/56	Z	7312-3D		
35/73	H	9035-3D		

審査請求 未請求 請求項の数4(全5頁)

(21)出願番号 特願平3-249640

(22)出願日 平成3年(1991)9月27日

(71)出願人 000010076

ヤマハ発動機株式会社

静岡県磐田市新貝2500番地

(72)発明者 小林 ▲昇▼

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内

(72)発明者 服部 敏幸

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機株式会社内

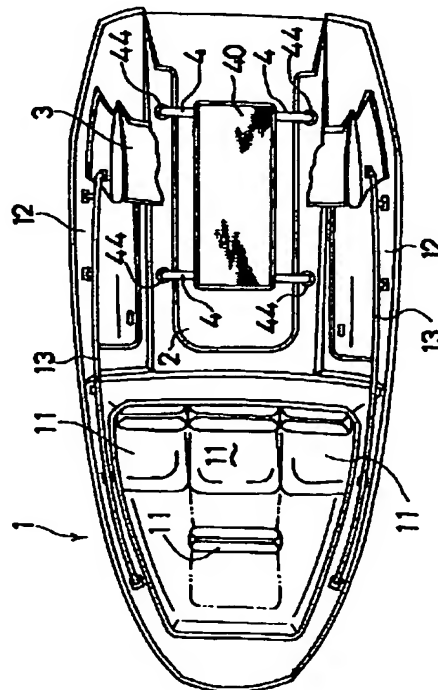
(74)代理人 弁理士 小谷 悦司 (外3名)

(54)【発明の名称】 被推進艇

(57)【要約】

【目的】 ジェット推進艇が挿入される凹部2上の空間を有効に利用できるようにして、被推進艇1のスペースを有効に利用できるようにする。

【構成】 船底から水を導入して船尾後方に噴射するジェット推進艇9により押されて航走する被推進艇1であって、幅方向ほぼ中央部に後方からジェット推進艇が挿入される凹部2が形成され、この凹部2の両側部間にわたって配置されるテーブル40を着脱可能に取付ける取付け手段44が凹部2の両側部に設けられ、上記凹部2の両側部には相対向して座席12が形成されている。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 船底から水を導入して船尾後方に噴射するジェット推進艇により押されて航行する被推進艇であって、幅方向ほぼ中央部に後方からジェット推進艇が挿入される凹部が形成され、この凹部の両側部間にわたって配置されるテーブルなどを着脱可能に取付ける取付け手段が凹部の両側部に設けられていることを特徴とする被推進艇。

【請求項2】 上記凹部の両側部には相対向して座席が形成されていることを特徴とする請求項1記載の被推進艇。

【請求項3】 上記凹部に跨って下端部が両側部に固定されたゲートが設けられ、このゲートには凹部に挿入されたジェット推進艇の船尾部を吊上げる吊上げ手段が設けられていることを特徴とする請求項1または2記載の被推進艇。

【請求項4】 上記凹部に跨って下端部が両側部に固定されたゲートが設けられ、このゲートの上部には凹部上を覆うオーニングの取付け部が形成されていることを特徴とする請求項1または2記載の被推進艇。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、後方に開口する凹部にジェット推進艇を挿入させ、ジェット推進艇に押されて航行する被推進艇に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、ジェット推進艇により押されて航行し、沖合で停泊して水遊びや釣りの基地として利用するようにした被推進艇が知られている。この被推進艇は、後方からジェット推進艇が挿入される凹部（ドッキングスペース）が幅方向ほぼ中央部に形成され、上記凹部の底板にはジェット推進艇の水導入口に対応して開口部が形成され、ジェット推進艇が凹部に挿入された状態で、この開口部および水導入口を通して水をジェットユニットに導入し、船尾後方に噴射させることにより推進力を発生させるようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記構成では、ジェット推進艇により沖合まで航行し、ジェット推進艇は凹部から外して他の用途に利用する。そして被推進艇は沖合で停泊してそれに乗った人が船上で遊ぶが、ジェット推進艇が外された凹部上の空間はデッドスペースとなって利用されないために、船上の利用できるスペースが制限されるという欠点がある。

【0004】この発明は、このような従来の欠点を解消するためになされたものであり、ジェット推進艇が挿入される凹部上の空間を有効に利用できるようにして、被推進艇のスペースを有効に利用できるようにした被推進艇を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明は、船底から水を導入して船尾後方に噴射するジェット推進艇により押されて航行する被推進艇であって、幅方向ほぼ中央部に後方からジェット推進艇が挿入される凹部が形成され、この凹部の両側部間にわたって配置されるテーブルなどを着脱可能に取付ける取付け手段が凹部の両側部に設けられているものである。

【0006】上記凹部の両側部には相対向して座席を形成することが好ましい。また上記凹部に跨って下端部が両側部に固定されたゲートを設け、凹部に挿入されたジェット推進艇の船尾部を吊上げる吊上げ手段を上記ゲートに設けることが好ましい。さらに上記ゲートの上部には、凹部上を覆うオーニングの取付け部を形成してもよい。

【0007】

【作用】上記構成では、凹部の両側部船体間にわたってテーブルなどを着脱可能に取付けられるようにしているために、沖合で停泊した際などに凹部上の空間を有効に利用することができ、さらに凹部の両側部に相対向して座席を形成させることにより食卓などを形成することができる。

【0008】また上記凹部に跨って下端部が両側部に固定されたゲートを設け、このゲートに吊上げ手段を設けることによりジェット推進艇の船尾部を吊上げて係留させ、ジェット推進艇のジェットユニットの保護を図ることができ、あるいはこのゲートを利用して凹部上を覆うオーニングを取付けることができる。

【0009】

【実施例】図1～図3において、被推進艇1は前部に座席11が形成され、その後側には幅方向ほぼ中央部に後方からジェット推進艇が挿入される凹部2が形成され、その両側の側部船体に相対向して座席12が形成され、この座席12の下部には図5に示すように、浮力空間16が形成されている。また船尾部付近には、上記凹部2に跨って、下端部が両側部船体に固定されたゲート3が設けられ、このゲート3には後述するように、凹部2に挿入されたジェット推進艇の後部を吊上げる吊上げ手段31が設けられている。また両側部船体には手摺り13が前後にわたって設けられている。

【0010】上記凹部2の上側にはテーブル40が配置され、このテーブル40は両側部船体間にわたって配置される脚4により着脱可能に取付けられるようにしている。すなわち、図1および図5に示すように、上記座席12の内側には脚4を着脱可能に取付ける受け部（取付け手段）44が4箇所設けられ、この受け部44中に脚4の端部を上側から挿入させることにより取付けるようにしている。この受け部44を設けた部分の上面と座席12の上面とは面一となっており、この両方の面を座席として利用できるようにしている。またテーブル40は、図4に示すように、一対の板がヒンジ41により折

畳み可能に結合されてなり、裏面両側部には下方に開口するU字形の保持金具42が取付けられ、この保持金具42に脚4を圧入させることにより脚4とテーブル40とを着脱可能に結合させるようにしている。またゲート3の上部には、図3に示すように適宜の柵15が取付けられるようにしている。そしてテーブル40を挟んで人10が座席12に向い合って座り、足を凹部2中に下して底板を足乗せ台として利用し、食事などができるようにしている。

【0011】なお、上記取付け手段は受け部44のような穴に限らず、テーブルなどが取付けられる構造であれば種々のものが採用可能である。また上記テーブル40の代わりに座席12と面一となる板部材を取付けるようにしてもよい。さらに浮力空間16内は物入れとして利用し、座席12は着脱可能な蓋として機能させてもよい。

【0012】図6および図7に示すように、上記ゲート3の上部には凹部2上を覆うオーニング8用の取付け部33が形成され、船首部付近には左右一対のボール81が着脱可能に取り付けられ、このボール81の上端部とゲート3の上部との間にオーニング8が張られ、これによって凹部2および座席12上に屋根が形成されている。

【0013】図8および図9は、ジェット推進艇9に係留させた状態を示し、ジェット推進艇9の船首部を凹部2中に挿入し、船尾部をロープ32により吊上げ手段31によって吊上げることによってジェット推進艇9の船尾部が水面90より上方に位置するようにして係留させている。

【0014】上記構成において、被推進艇1は水上に浮かせた状態で、凹部2中に後部からジェット推進艇9を挿入させ、その状態でジェット推進艇9を運転することにより被推進艇1を推進、航走させる。そして沖合で被推進艇1を停泊させ、ジェット推進艇9は凹部2から抜き出して単独で滑走させて楽しむ。一方、被推進艇1上の人10は、艇体上で過ごす、その際図1～図5に示すようにテーブル40を脚4により凹部2上に設置し、人10が座席12に腰掛けて食事などをする。この際、ゲート3には柵15を取付けることもできる。またゲート3とボール81とを利用してオーニング8を張って、直射日光を避けるようにすることもできる。

【0015】また被推進艇1を岸に戻し、ジェット推進

艇9を長期間係留させておく場合には、図8および図9に示すように、被推進艇1の凹部2中にジェット推進艇9の船首部を挿入させ、船尾部をロープ32で吊上げてジェットユニットを水面90上に位置させ、これによってジェットユニットに貝殻などが付着するのを防止するようにすることもできる。

【0016】

【発明の効果】以上説明したように、この発明によれば凹部の両側部船体間にわたってテーブルなどを着脱可能に取付けられるようにしているために、沖合で停泊した際などに凹部上の空間を有効に利用することができ、さらに凹部の両側部に相対向して座席を形成させることにより食卓が形成されて便利である。

【0017】また上記凹部に跨って下端部が両側部に固定されたゲートを設け、このゲートに吊上げ手段を設けることによりジェット推進艇の船尾部を吊上げて係留させ、ジェット推進艇のジェットユニットの保護を図ることができ、あるいはこのゲートを利用して凹部上を覆うオーニングを取付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例を示す平面図である。

【図2】図1の側面図である。

【図3】図1の背面図である。

【図4】テーブルの分解斜視図である。

【図5】テーブル取付け部の断面説明図である。

【図6】凹部上にオーニングを取付けた状態の平面図である。

【図7】図6の側面図である。

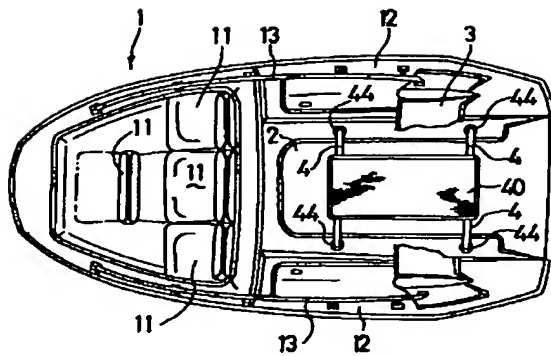
【図8】ジェット推進艇を凹部に係留させた状態の平面図である。

【図9】図8の側面図である。

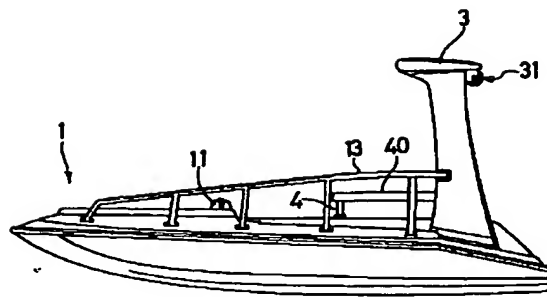
【符号の説明】

- 1 艇体
- 2 凹部（ドッキングスペース）
- 3 ゲート
- 4 テーブルの脚
- 8 オーニング
- 9 ジェット推進艇
- 11, 12 座席
- 31 吊上げ手段
- 40 テーブル
- 44 受け部（取付け手段）

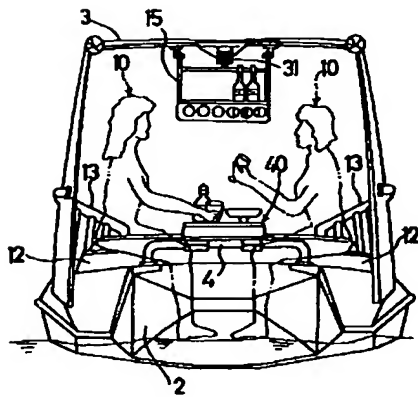
【図1】



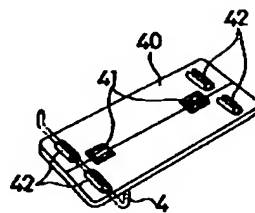
【図2】



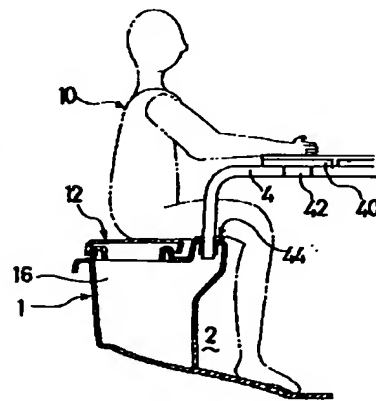
【図3】



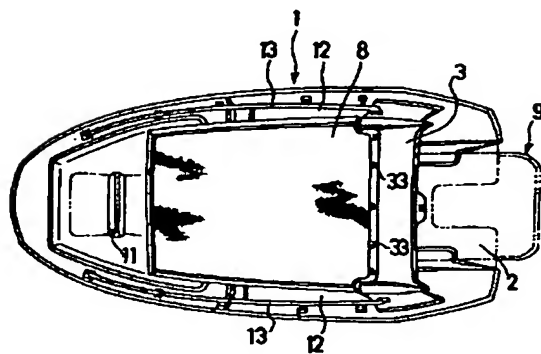
【図4】



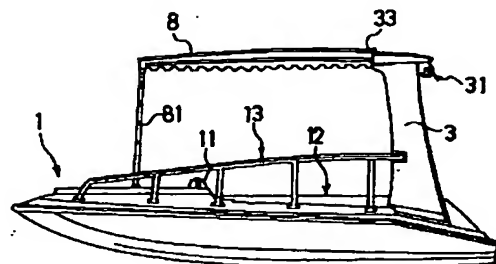
【図5】



【図6】

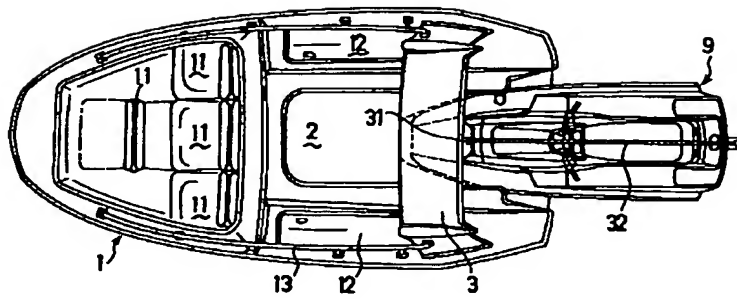


【図7】

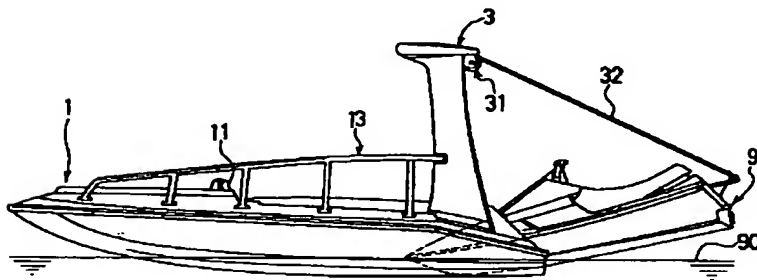


BEST AVAILABLE COPY

【図8】



【図9】



BEST AVAILABLE COPY